

日本人専門家リスト

当初計画		年度別実績				
		1年次		2年次		
担当分野	全体派遣期間(MM)	担当分野	氏名	従事期間	担当アウトプット/活動	
総括/センター運営	19.3	総括/センター運営	中村 秀夫	4.03	<ul style="list-style-type: none"> ベースライン調査企画 TTC運営計画の検討 プロジェクトスケジュールの修正 	
研修マネジメント①	23.64	研修マネジメント①	白川 佳典	5.37	<ul style="list-style-type: none"> ベースライン調査実施 教員研修コース枠組みの構築 研修実施体制の立ち上げ 進捗管理 	
研修マネジメント②	9.17	研修マネジメント②	荒 久美子	2.40	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクトウェブの構築 スマートクラス活用の作成 研修実施体制の立ち上げ 進捗管理 	
PLC	16.7	PLC	反町 嘉夫	4.93	<ul style="list-style-type: none"> モジュールテキスト作成支援 教員研修テキストの構成策 	
電気・電子	15.29	電気・電子	内藤 正樹	4.83	<ul style="list-style-type: none"> TTC講師の研修モニタリング 評価 	
コンピュータ・ネットワーク	13.43	コンピュータ・ネットワーク	佐藤 恵一	2.97	<ul style="list-style-type: none"> C/Pへの技術指導 ベースライン調査実施 	
自動制御	8.03	自動制御	下西 二郎	2.23		
総括/センター運営		総括/センター運営	中村 秀夫	3.20	<ul style="list-style-type: none"> TTC運営計画の策定・評価 TTC長期運営計画案検討 普及校モニタリング 研修運営マニュアル試案の作成 	
研修マネジメント①		研修マネジメント①	永井 多聞	8.77	<ul style="list-style-type: none"> TTC運営計画の策定・評価 TTC長期運営計画案検討 普及校モニタリング 教員研修モニタリング 普及校管理者向けワークショップの計画・実施 研修システム改善の討議、検討 進捗管理 	
研修マネジメント②		研修マネジメント②	前田 知子	2.80	<ul style="list-style-type: none"> 教員研修モニタリング 普及校モニタリング 研修システム改善の討議、検討 進捗管理 	
PLC		PLC	錫田 正俊/ 梶原 秀一	8.53	<ul style="list-style-type: none"> 教員研修テキスト、モジュールテキスト作成支援 教員研修モニタリング 	
電気・電子		電気・電子	中島 レイ	8.43	<ul style="list-style-type: none"> 普及校モニタリング C/Pへの技術指導 	
コンピュータ・ネットワーク		コンピュータ・ネットワーク	滝沢 陽三	2.10		
自動制御		業務調整(自社負担)	河野佐智	3.00	<ul style="list-style-type: none"> 業務補佐 通訳、翻訳補助(英語⇄日本語) 	

携行機材一覧

当初計画 (全体)		追加購入	1年次		2年次 (2009年1月末時点)	
機材名	必要数	機材名	実績	金額	実績	金額
コンピュータ	2 (デスクトップ)		2	1,632,381	-	-
	4 (ノート)		3		-	-
プリンター	1		1		-	-
	1		1		-	-
コピー機	1		1		-	-
PCソフト (Acrobat)	1		1		-	-
携帯電話	3		4	29,271	-	-
周辺機器	1式		1式	23,429	-	-
プリンタートナー	168本		1式	598,198	1式	450,000
プロジェクタ	1		-	-	-	-
PCソフト (MATLAB)	1		-	-	-	-
PCソフト (VEE)	1		-	-	-	-
PCソフト (HALCON)	1		-	-	-	-
デジタルカメラ	2		-	-	-	-
デジタルビデオカメラ	2		-	-	-	-
USB/GPIB インターフェイス	1		-	-	-	-
データ収集装置	1		-	-	-	-
同上スイッチユニット	1		-	-	-	-
同上ファンクションモジュール	1		-	-	-	-
GP-IBケーブル	2		-	-	-	-
電圧安定器	2		-	-	-	-
		PLC及び付帯部品	-	-	1	382,000
		実験・実習教材用部品	-	-	1式	200,000

本邦研修参加者一覧¹⁶

No	氏名	所属	期間	研修コース名
1	Murat ÖZDEVECİ	Mazhar Zorlu Anatolian Technical High School	2008年12月2日 ～12月19日	国別研修(カウンターパート研修) 「工業系技術教育における教員養成システム」
2	Turgay İŞBİLEN	Mazhar Zorlu Anatolian Technical High School		
3	Şeref ARSLAN	MoNE GD of Technical Education for Boys		青年研修「職業訓練 自動制御技術」
4	Necati MAVRUK	Adana Anatolian Technical High School		
5	Servet USTA	Afyonkarahisar Gazi Anatolian Vocational Training and Technical High School		
6	Salim KIYMAZ	İskitler Industrial Vocational High School		
7	Mustafa KORKUT	Antalya Anatolian Technical High School, Anatolian Maritime High School, Anatolian Vocational High School, Technical High School and Industrial High School		
8	Sezai KURUŞÇU	Bursa Ali Sönmez Anatolian Vocational High School		
9	İsmail DOĞRU	Denizli S.O. Yusuf Batur Anatolian Vocational High School		
10	İbrahim GÜNER	Erzurum Anatolian Vocational, Technical and Industrial Vocational High School		
11	Levent ÇAM	Atatürk Anatolian Vocational, Technical and Industrial Vocational High School		
12	İbrahim IŞIK	M.Rüstü Uzel Anatolian Technical Vocational High School and Industrial Vocational High School		
13	Selahattin TÜTEN	Pendik Anatolian Technical Vocational High School		
14	Eyüp KILINÇ	K.Maraş Anatolian Vocational High School		
15	Osman YÜCEL	Kayseri Hürrüyet Vocational and Technical High School		
16	Mehmet Şerif KILIÇ	Gebze Anatolian Vocational High School		
17	Murat DENKTAŞ	Malatya Yunus Emre Anatolian Vocational High School		
18	Ercan Ahmet ATEŞ	Tarsus Anatolian Technical Vocational High School and Industrial Vocational High School		
19	Hüseyin YILDIZ	Ordu Anatolian Vocational High School		
20	Ahmet URYAN	Şanlıurfa Anatolian Technical High School and Industrial Vocational High School		
21	Oğuz GÜNAÇAN	Çorlu Mehmet Rüstü Uzel Anatolian Technical, Vocational, Industrial and Technical High School		
22	Mustafa DANIŞMAN	Van Anatolian Occupational High School		

¹⁶ 本プロジェクトカウンターパート研修(国別研修)のほか、それとの連携プログラムとして実施した青年研修参加者を含む(No. 1-2が前者、3以降は後者の枠組みによる参加)。

本邦研修日程表

日数	月日	時間	科目等内容	形式	講師等担当者 (敬称略)	研修場所	部屋	宿泊先	テキスト	
1	12/2 (火)		来日							
2	12/3 (水)	AM	来日手続き、日本滞在に係るブリーフィング	TIC		IFIC	※内田さんより部屋予約済	TIC	-	
		PM	研修概要オリエンテーション (目的、成果品、スケジュール等)	JICA人間開発部高等・技術教育課 後藤 JICA筑波 内田						
3	12/4 (木)	9:30~12:30	日本の教育システムと工業系技術教育の概要	講義	文部科学省初等中等教育局参事官付教科調査官 池守 滋	IFIC	※内田さんより部屋予約済	TIC		
4	12/5 (金)	10:00~12:00	高等専門学校における教育の概要	講義	独立行政法人国立高等専門学校機構理事 木谷雅人	高専機構本部 (田町)				
		14:00~17:00	日本科学未来館見学	見学 (自由見学)		日本科学未来館				
5	12/6 (土)		休日						TIC	
6	12/7 (日)		休日 (移動：東京→群馬)						群馬県内ホテル ※内田さんより前棟の契約ホテル予約済	
7	12/8 (月)	10:00~	工業高校における教育の概要	講義 見学	群馬県教育委員会 高校教育課 指導係 指導主事 天田 敏明 群馬県総合教育センター 研究企画係 補佐 町田 志伸	群馬県庁	294会議室 (29階)	群馬県内ホテル ※内田さんより前棟の契約ホテル予約済		
		14:00~	教員養成システムと教員研修			群馬県総合教育センター				
8	12/9 (火)	10:00~12:00	工業高校の実際 ・施設見学 ・カリキュラム等教育の内容・取り組み	講義 見学	群馬県立前橋工業高校 副校長 豊島 卓司	群馬県立前橋工業高校		群馬県内ホテル ※内田さんより前棟の契約ホテル予約済		
		13:00~15:00								
9	12/10 (水)	10:00~	【CP2名】 教員養成大学の役割と機能	講義 見学	群馬大学教育学部 教育学部 教務係長 笠井 好之 群馬大学工学部 学務係長 姉崎 英広	群馬大学教育学部 (前橋)		TBIC		
		13:30~	【青年研修20名】 大学工学部における教育・研究 移動 (群馬→茨城)							群馬大学工学部 (桐生)
10	12/11 (木)	10:00~12:30	高等専門学校における学校・学科の運営 ・日本の教育システム及び茨城高等の概要 ・校内見学 ・カリキュラム設定・授業計画等 ・授業評価・教員の採用・評価、能力向上策 ・就職活動支援、インターンシップへの取り組み ・学科運営に関する学科長との懇談 ・産学連携・共同研究への取り組み	講義 見学 討議	茨城工業高等専門学校 副校長・教授 柴田尚志	茨城高専		TBIC		
		14:00~16:30								
11	12/12 (金)	10:00~12:30 14:00~16:30								
12	12/13 (土)		休日						TBIC	
13	12/14 (日)		休日						TBIC	
14	12/15 (月)	10:00~12:00	企業見学① (株) 小松製作所 茨城工場	見学	(株) 小松製作所 茨城工場 総務部副部長 鈴木敏夫	(株) 小松製作所 茨城工場		TBIC		
		14:00~16:30	企業見学② (株) 日立製作所 日立事業所							(株) 日立製作所 日立事業所 総務部庶務グループ渉外係主任 宮田丈治
15	12/16 (火)	10:30~12:00	ワークショップ ＜AM＞グループワーク (自主)	討議	プロジェクト専門家 (PMのみ) ・パデコ：中村リーダー、永井専門家 ・高専：嶋田先生 JICA人間開発部高等・技術教育課	TBIC		TBIC		
		13:30~16:30	＜PM＞グループワーク (専門家同席あり)							
16	12/17 (水)	10:30~12:00	ワークショップ ＜AM＞発表 (青年研修参加者)	討議	プロジェクト専門家 (前日と同じ) JICA人間開発部高等・技術教育課	TBIC		TBIC		
		13:30~16:00	＜PM＞発表 (青年研修参加者)							
17	12/18 (木)	10:00~12:30	ワークショップ 発表 (国別研修参加者) 及び討議	討議	プロジェクト専門家 (前日と同じ) JICA人間開発部高等・技術教育課 後藤 JICA筑波 内田	TBIC		TBIC		
		PM	評価会・閉講式							
18	12/19 (金)		離日							

* TIC：JICA東京国際センター
TBIC：JICA筑波国際センター

TTC カウンターパート一覧¹⁷

	氏名	専門	プロジェクト参加度	備考
1	Turgay ŞBİLEN	-	中	イズミール校副校長
2	Murat ÖZDEVECİ	Machinery	大	イズミール校IAT学科長
3	Bülent VARDAL	Computer (C.N.)	大	
4	İsmail AKTAŞ	Electronics (PLC)	大	
5	Gürcan BILDIR	Electricity	大	
6	Güliz OKUR	Machinery	小	
7	Şenay ÖZÇAM	Electronics (A.C.)	大	
8	Ahmet ÖZKAN	Electronics (E/E)	大	
9	Mustafa NAZMAN	Computer (A.C.)	大	
10	Telât GÜLER	Electronics	中	
11	Kahraman ÖNEY	Electricity	小	
12	Hasan YILDIZ	Machinery	大	
13	Selim GÜLÇEN	Electricity	小	
14	Sedat ELBİR	Electricity	小	
15	Mustafa GÜNEŞ	Machinery	小	
16	Nurhan NAZMAN	Electronics	小	
17	Egemen Doger	Computer	大	1年次は日本留学により、2年次より参加

他3名

¹⁷ プロジェクトマネージャーのイズミール校校長を除く。

収集資料一覧

No	内容	入手元
1	普及校IAT学科教員 TTC研修受講状況一覧	TTC
2	Table Result and Plan of IAT Teacher Training and Their Assignments 2006-2012 (TTC教員研修中期実施計画・実績<含 普及校IAT学科への教員配置計画>)	TTC
3	General Evaluation of Satisfaction Questionary for 10 and 11 Grades (TTC研修受講者アンケート<6-12ヶ月後>結果)	TTC
4	Invitation Procedures of Teacher Training Courses (教員研修<一般>実施フロー)	TTC
5	Allocation of Teacher Training Subjects and Time for Grade 10 & 11 and 12 (IAT学科モジュールと教員研修科目 対照表)	TTC
6	Structure and Contents of the Textbooks for Teacher Training in IAT (TTC教員研修の構成及びテキスト対照表)	TTC
7	List of Teacher Training Courses by TTC (TTC教員研修コース一覧)	TTC
8	シラバス様式	TTC
9	Teachers's Books of 10th/11th/12th Grade (教員研修テキスト作成進捗状況一覧)	TTC
10	Long Term Strategy Plan of TTC (TTC長期戦略 TTC実働レベルカウンターパート案)	TTC
11	Application Period of Teacher Textbook (教員研修テキスト使用開始日一覧)	TTC
12	General Results of Questionnaires (TTC研修受講者アンケート<コース終了直後>結果)	TTC
13	Evakuation of Factory Technical Stuff for the Student Who Had Training in their Factory (イズミール校学生の企業実習パフォーマンス評価)	TTC
14	TTC研修コース日程	TTC
15	Principles on the subject areas & higher education program and courses of those who will be appointed as teachers in the educational institutions connected to MoNE (MoNE傘下の教育機関における教員の専門分野と担当可能科目に係る規程)	MoNE
16	No. 15 別添 (教員の配置登録学科、専門分野<大学での専攻>、担当可能科目の対照表)	MoNE
17	Second Letter to Board of Education (dated on Dec. 2008) (IAT学科及び鉄道技術学科の教員配置登録に係るGDTVEからBoE宛レター)	MoNE
18	Regulation of Board of Education (BoEに係る規程)	MoNE
19	教員の能力評価シート(自己評価方式)	Bursa校

面談記録

日時	2009年2月18日(水) 午前 11:40 - 12:20
場所	Ministry of National Education
面談相手	Mr.Necmettin Yalcin, General Director, Human Resource Management, Mr. Huseyin Acir, General Manager, TVE, Mr. Yucel Yuksel, Head of Department TVE
面談者	後藤団員、小村企画員、Ali プログラムマネジャー、竹井、(Nur 通訳)

概要

(1) プロジェクトへの取り組みについて
Yalcin 氏から、「日本との友好関係は深いものがある。このプロジェクトは単に教育の問題のみでなく、Social Activity でもある。今回の中間評価調査で発現された問題は解決していく用意がある (We are ready to solve problems which found in this evaluation activities)。」と発言があったのち、個々の課題について議論された。
(2) Expansion School の IAT 教員配置の遅れについて
後藤：当初計画では1校15人程度が配置されることとなっていたが、現在は6人から10人程度の学校が多いと聞いている。 Yalcin：この問題は容易に解決できる。数さえ決まれば、VTE と協働して増やせる。現在も進行中である。
(3) Expansion School の IAT 教員のアサインメントの条件について
後藤：TTC での教員研修が Expansion School の IAT 教員としてアサインされるための必須の条件となっていないと聞いている。 Yalcin, Acir：トルコでは各人の教育バックグラウンドの分野の教員になるというルールがある。しかし IAT は新しい分野なので、IAT が自分の教育バックグラウンドであるという人材はいない。そのため Board of Education でどのような教育バックグラウンドの人が IAT の教員になれるかというルール (選考基準) つくりをしている。そのルール案と実際にそのルールにしたがって最初に IAT の教員になれる 160 人の TTC の卒業生リストが既に提出され、Board の承認を待っている。このルールが承認されれば、TTC での教員研修が Expansion School の IAT 教員としてアサインされるための必須の条件となる。なお現在はこのルールがないので、各自の教育バックグラウンドの分野の教員が IAT の教員を兼務する形となっている。 竹井：その案はいつ提出され、いつごろ承認される見込みか。 Yalcin, Acir:1~1.5 カ月前に提出された。承認はできるだけ早く (ASAP) されると思う。ただ、承認は他の議題などと共にされることになるので、いつになるかははっきりわからない。

日時	2009年2月18日(水) 午前・午後 13:30 - 14:30
場所	Ministry of National Education
面談相手	Mr. Ahmet Firret Bayrakli, Director, Department of In-Service Training, Mr. Yucel Yuksel, Head of Department TVE
面談者	後藤団員、小村企画員、Ali プログラムマネジャー、竹井、(Nur 通訳)

概要

(1) Department of In-Service Training と TTC の相違について
Department of In-Service Training は全ての教職員 (6~70 万人) を対象に研修を行っている。期間はいろいろあるがその多くは5~10日のものであり、内容は多岐にわたる。中央レベルのものも、地方レベルのものもある。訓練センターの同様に中央レベルのものと、地方レベルのものがある。 (後に TTC の幹部から、In-Service Training はあらゆるレベルの教職員を対象とした短期の慰労的な集まりであり、専門分野の技術教育などは行われておらず、TTC の教員研修とは全く異なる種類の研修であると説明があった)
(2) Department of In-Service Training と TTC の協力関係について

Department of In-Service Training は MoNE が行うすべての教職員研修の公示、申請受付、選別、承認、通知などを行っている。公示は Web サイトに載せられ、タイトル、テーマ、内容、応募資格などが示される。申請受付もこの Web サイトで行われる。選別承認は、地域レベル、地方レベル、中央レベルの各段階を経て行われる。

竹井：TTC での訓練もその Web サイトに載り、同じプロセスで申請受付、選別、承認、通知などが行われるのか。⇒そうである。

（後に TTC の幹部から TTC の研修受講生の割り当てや選別、通知はこれとは全く異なる方法で実施しているという説明を受けた）

竹井：この Web サイトを見ることが、教職員がどのような訓練がいつあるかを知る唯一の手段なのか。⇒よほどの地方で、Web サイトを見ることが困難な地域以外では、そうである。

(3) 訓練受講後の受講証書について

各訓練は最後に試験を行い、合格者には Certificate が与えられる。この Certificate のフォーマットはすべての訓練に共通である。

後藤：TTC の訓練もこのフォーマットを使うのか。⇒そうである。

日時	2009年2月18日(水)午後14:40-15:30
場所	国民教育省 Education Equipment and Hardware Department
面談相手	Mr. Omer ERDURAN, Chairman of Administration
面談者	後藤団員、竹井団員、小村企画調査員、Ali NS、Mr. Yucel YUKSEL(Project Manager/Head of Department, General Directorate of TEchnical and Vocational Education)

概要

(※括弧内は発言者。記載のないものは面談相手の Mr. ERDURAN による。)

(1) プロジェクトと本部署 (Education Equipment and Hardware Department) の関わりについて
<ul style="list-style-type: none"> 2000年の第一ステージ以来技術職業教育総局(GDTVE)とは協力を行ってきており、同ステージを含め本部署から当該プロジェクトに対して行った投入は10百万US\$に上る。今後も協力をしていく用意はできている。 <p>→これまでのプロジェクトに対するサポートに感謝。本分野は技術革新が目覚しく、機材がすぐ陳腐化するので継続的な更新が必要であり、今後も引き続きサポートをお願いしたい。(後藤)</p>
(2) プロジェクトからの機材購入申請について
<ul style="list-style-type: none"> これまでにプロジェクトから得ている情報では、未だ必要機材の不足があるとのこと。機材不足の問題は①TTC②一部普及校の二通りあるが、特にTTCにおける機材不足によってテキストが作成できない状況があると聞いている。明日からのイズミール校訪問で詳細を確認したいと考えている。(後藤) <p>→昨年6月のPPMで後発校に400百万TLの予算配賦をするとの話をし、これについては既に実施済み(当該予算は、GDTVEの機材予算全体の1/3にあたる)。また、イズミール校からは600百万TLの必要機材リストの提出を受けている。特に12年生用のテキスト作成に必要な機材の不足が問題となっている。(Yucel)</p> <p>→2/27のJCCで不足機材の情報を共有・議論したい。それをふまえて本部署より担当者をイズミール校に派遣して詳細を調査し、必要性をみて対応していきたい。</p>
(3) 機材予算申請の手続きについて
<ul style="list-style-type: none"> 機材の購入に係る予算申請のスケジュールは通常どようになっているか。(後藤) <p>→トルコにおける予算年度の開始は1月からだが、通常前年の7~8月に申請が開始、9~10月に予算計画の策定が行われ、新年度開始後、実際に財務省から予算が配賦されるのは3月からとなる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 年度途中で追加申請をする場合の手続きはどうか。(後藤) <p>→当初予定外の場合は、MoNE内(原課と本部署)で必要予算額を協議し、それをふまえて財務省との協議手続きが必要となる。この場合、最短でも1~2ヶ月はかかる。</p>
(4) 機材調達の手続きについて
<ul style="list-style-type: none"> 購入機材のメーカーは誰がどのように決定するのか。(竹井) <p>→機材調達は、公共調達に係る法律(public procurement law)に基づいて行う。まず専門家から成る委員会が組織されて機材の仕様を検討、仕様決定後公示にかけ、40日後に入札が行われて業者が決定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 仕様検討時に市場におけるシェアは考慮されるか。(竹井) <p>→技術仕様の検討が第一だが、市場動向も一つの検討基準にはなる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 調達手続きにはどれくらいの時間がかかるか。(小村) <p>→本省で手続きを行う場合と各学校で行う場合とで異なる。金額によってどちらで行うか決まるが、小規模なものであれば学校レベルでの調達となり、早くできる。今回の場合、2009年度計画予算の範囲内に収まるものであれば、2/27のJCC後、3月中には具体的に動き出せると考えられ、その場合には9月の新学期までに間に合う。</p>

日時	2009年3月2日(月)午後10:20-11:25
場所	国民教育省
面談相手	Mr. Mehmet TEMEL, Deputy Undersecretary
面談者	渡辺団長、池守団員、後藤団員、竹井団員、小村企画調査員、Ali NS、中村 SPREAD リーダー、Mr. Huseyin ACIR (技術職業教育総局<GDTVE>局長), Mr. Yucel YUKSEL (同総局部長), Ms. Nur (通訳)

概要

(1) 調査団の概要及び調査結果について (渡辺団長)	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 今回の調査に際し、トルコ側の努力、及びモチベーション高い CP に感銘を受けている。プロジェクトは一定程度進捗しているものと理解しているが、同時に以下 3 点の課題がある。 <ol style="list-style-type: none"> ① 機材不足；これによりテキスト準備及び研修の実施が遅れている。本プロジェクトにおける機材の整備はトルコ側によってなされるべき前提条件。今回、JCC でフセイン局長から TTC に対する今年度機材予算の優先的配分の意向が表明されたことを歓迎。 ② TTC の環境；法的位置づけ、予算の独立性、CP (TTC 研修講師) のステータス等の明確化が必要。調査によれば、CP たちは TTC での業務とイズミール校の学生向け授業とを兼務しているため非常に多忙であり、これが研修の実施や日本人専門家からの技術移転の遅れを招いている。TTC の独立については、現行法の下では不可とのことだが、予算の独立及び CP (研修講師) の専従化は是非検討すべき。本来、これらはトルコ国民教育省内で検討されるべき内部の問題であることは重々承知しているが、特に CP の状況等はプロジェクト全体の進捗に大きな影響を及ぼすため、敢えて提起する次第。 ③ 普及校 IAT 学科における教員配置；現在、多くの教員が TTC での研修後、IAT 学科を離れているとの問題がある。これには複数の要因があると理解しているが、深刻にとらえ、何らかの対策を検討頂きたい。 <p>→プロジェクトの成功のため、GDTVE も非常に注意深いアプローチで努力していると理解している。(次官補)</p>	
(2) 調査団から提起した 3 つの課題に対する対応について (Huseyin 局長)	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 調査団から提起された問題については、JCC でも関係者で議論した。その対応に係る要点は以下のとおり； <ol style="list-style-type: none"> ① 機材について；今年は予算を優先的に TTC に配分したいと考えている。これまで TTC の機材は十分に認識していたため、去年は普及校(後発校)に優先的に予算の配分を行った(20 校に対し、総額 17 百万 TL)。今年度 TTC に優先的に予算をつけることで、現在の不足は解決されるものと考えている。現在 TTC では日本人専門家の支援も受けて必要機材リストを準備していると聞いている。JCC で専門家から必要機材総額は 1 百万 TL との言及があったが、今後これを精査していきたい。なお、TTC は非常に重要な組織であり、当局としてもできる限りのことをしていきたいと考えている。 ② TTC の環境について；法的位置付けについては JCC で困難である背景を説明したとおり。トルコにとって TTC のような(特定分野に特化した)教員研修施設は初めてであり、今後モデルとなることが期待されている。予算については、イズミール校に配分されるものを TTC 用として別途区分することはできるので、問題ないと思う。一方、CP の TTC への専従配置については法律が関係し難しいことから、あくまでイズミール校への人員配置によって対応している。この中で、CP が担当する学生用授業の数を削減することで対応していきたい。 ③ 普及校 IAT 学科の教員配置について；普及校及びイズミール校 IAT 学科への教員配置は財務省からの特別承認を得て各校 15 ポスト、21 校合計で 315 のポストが割り当てられている。このうち 170 のポストについては、隣接学科教員で希望する者を TTC で研修のうえ異動させることで対応しつつあり、現在徐々に配置が増えているところである。ただし、この際に法的問題があり、現在その改正を Board of Education に提出している。人事局もこの改正には強い関心を持っており、近い将来にこの 170 のポストについては問題なく配置がなされるはずである。残る 145 のポストについては、引き続き隣接 4 学科の教員に研修を実施し配置していくとともに、来夏には大学のメカトロ科卒業生も出てくることから、彼らに対しても研修を行って配置を進めていく予定である。 <p>→日本・トルコ両政府の間では、これまで様々な成功プロジェクトを実施してきており、イズミール校で現在行っているプロジェクトも成功しているものと理解している。短期的に色々な問題が生じるのは自然なことであり、現在は調査団から言及があったように 3 つの課題がある。内部の法的問題で必ずしも解決できない部分もあるかもしれないが、将来的に大きな問題にはならないものと信じ</p>	

ている。TTC の今後については、トルコ国内の教員に対する研修だけでなく、外国からも研修に呼ぶことを検討しており、今後これを拡大していくことを考えている。技術職業教育分野ではこれまで非常に成功したプロジェクトを実施してきており、JICA や日本政府の協力に感謝する。(次官補)

日時	2009年3月2日(月)午後11:35-12:10
場所	国民教育省
面談相手	Mr. Merdan TUFAN, President, Board of Education (BoE)
面談者	渡辺団長、池守団員、後藤団員、竹井団員、小村企画調査員、Ali NS、中村 SPREAD リーダー、Mr. Huseyin ACIR (技術職業教育総局<GDTVE>局長), Mr. Yucel YUKSEL (同総局部長), Ms. Nur (通訳)

概要

冒頭、Huseyin 局長よりプロジェクトの概要及び調査団の訪問目的を説明。それを受けたやり取りは以下のとおり。

(渡辺団長)

- ・ 今回本調査団はプロジェクトの中間レビューのために来トした。プロジェクトは日ト双方の努力で進捗しているが、いくつかの課題あり。その解決について貴省と議論しているところであり、貴省の強いサポートを得てプロジェクトが成功することを期待。
- ・ 今回確認された課題の一つは TTC が今後どう存続していくかについてである。これに関し、TTC に関するレターが GDTVE より提出されたと聞いているが、それに関する議論の進捗状況を聞きたい。

(Huseyin 局長)

- ・ 省規程 No. 119 により、機械、電気等 IAT 隣接学科の教員 170 名がこれまで TTC で特別に研修を受けており、彼らは研修後普及校の IAT 学科に配置されることが期待されている。しかし、その立場が IAT 学科教員として確立していないことが問題となっており、その異動を完全なものとするため、人事局が BoE に提出されたレターの回答を待っているところである。

(Mr. TUFAN)

- ・ BoE はどの専門分野の教員が何の教科を教えるかに係る決定を行っている。同規程は 4 年前にでき、これまでいくつかの変更が行われてきているが、一般的にはこれに沿った対応が必要。しかし、今回提起されている件については、話を聞いている限り例外的措置と考えられ、極力早期に議論することが重要と認識。

(Huseyin 局長)

- ・ 今回提出しているレターは一度限り、特別に異動の権利を与えるもの。本件は国際的なプロジェクトに関わるもので優先度が高い。来夏には大学のメカトロ学科から第一期の卒業生が出る予定で、今後は彼らの配置を進めていくが、現在のところは隣接学科の教員を配置することによる対応を考えており、そのために TTC で研修を行っている。

(Mr. TUFAN)

- ・ 同レターの承認については問題ないと思うので、極力早期に行いたい。
- ・ BoE には 15 名のメンバーがおり、その全員の承認が必要となる。当該レターは既に BoE 内の担当部署に送られており、今後関係部局と協力の上、BoE の議題として上げられることになるが、これは極力早期に取り組みたい。本件は既に現実に研修を受け働いている教員がいるので、後は形式的に進めていくだけである。

日時	2009年3月4日(水) 午前 11:20 - 11:50
場所	国民教育省
面談相手	Mr. Muammer YASAR, Undersecretary
面談者	渡辺団長、池守団員、後藤団員、竹井団員、小村企画調査員、Ali NS、中村 SPREAD リーダー、Mr. Huseyin ACIR (技術職業教育総局<GDTVE>局長), Mr. Yucel YUKSEL (同総局部長), Ms. Nur (通訳)

概 要

冒頭、Huseyin 局長よりプロジェクトの概要及び調査団の訪問目的を説明。それを受けたやり取りは以下のとおり。

(Mr. YASAR)

- ・ 評価に係る協議が有意義であったことを嬉しく思う。国民教育省としては、着実にプロジェクトの実施を進めており、今後もそれを継続していくつもりである。

(渡辺団長)

- ・ 本日 MM の署名交換を了した。調査は円滑かつ成功裏に実施でき、貴省の協力を感謝。
- ・ 今次調査を通じて、プロジェクトの進捗と共に、いくつか重要な課題があることも確認。①TTC における機材不足②TTC の位置付け (責任と権限を明確化する必要性) ③IAT 学科の教員配置に係る規程の3点。うち、①については貴省において早急な対応がなされるものと理解。
- ・ また、今次調査では、トルコ政府のコミットメントの高さ、及びトルコ側 CP の熱意に感心。本プロジェクトが成功することを信じると共に、JICA としても引き続き最善を尽くしていく。

(Mr. YASAR)

- ・ 日本とは特別なつながりがあると感じている。自分自身は2回 JICA の研修で来日した。
- ・ 本省では、他にも JICA と行っているプロジェクトがあり (災害教育及びロボコン)、日本とはよい関係を築いていると認識。今後も関係強化を図っていきたい。

(Huseyin 局長)

- ・ 今年のロボコンは4種目で計439校が参加予定 (88 大学、22 高校、329 技術/職業高校)。さらに来年はトルコにおけるに本年であり、特別な催しとなるよう計画を進めている。